

2022年 春季大祭・春季合同慰霊祭 のご案内

大祭執行委員長 河合恭久

【日時】令和4年5月15日(日) 午前10時より

【場所】大本三河本苑

【諸行事】冠沓句巻開き

※尚、詳細は後日、各機関長へご連絡致します。

三河本苑だより

4月号

2022.4 No.479
(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

「三河本苑 LINE公式アカウント」 を始めました!!

デジタル化推進部 三矢直彦



↑ コちらから
本苑だより更新中

今も未だ、対面や集団での活動が制約されており、オンラインでの情報発信が必須となってきました。令和4年度、本部の教団方針に掲げられているインターネットを併用した祭典・行事の執行、参拝や宣教活動を進めるため、現在、三河本苑においてもデジタル化へ向けた準備を進めております。この度、信徒の方々への情報発信の一つとして「三河本苑LINE公式アカウント」を始めました。LINEを使用し、様々な情報発信をしていきます。スマートフォンでQRコードを読み取っていただき、是非とも登録をお願い致します。



「祭式講習を受講して」

正徳分所
小林豊和

今回の祭式講習を受講させていただいたのは、家での月次祭を自分で行えるようになったと思っただのがきっかけでした。私は入信してまだ一年足らずで、作法もほとんど分からない状態で、戸惑うばかりで緊張しながら講習を受講していました。講師をして下さった先生は、スムーズに軽々と行っている動作も、いざ自分が行ってみると上手く出来ず、もどかしく感

じました。しかしながら、どうか家での月次祭を自分でやれるようにしたい思いで、上手く出来ず、なかなか動作を覚えられない状態で、不安と焦りの中で練習をしていました。一日目の練習が終わわり、家で動作の復習や用語も覚えたりして何とか翌日の試験が上手くいくようにと、自習を行いました。そのような状態で二日目の講習を迎えましたが、若い頃のようにには記憶する事もできず、不安のまま講習時間も終わり、試験本番を迎えました。

【聖師様の愛善の道】
誠ある人の誠の行為(おこない)は
砕けてもなおおかんばしきかな
言葉よりまず行いをなしてみよ
百(もも)の舌にもいや勝るべし

緊張で試験中は、頭の中が真っ白になりながら動作を行いました。何とか合格の認定をいただく事が出来、ほっとしました。しかしながら、まだまだ復習しないときちんとできないレベルである事を痛感して

**直心会
役員・支部長
会議開催!**
4月17日(日)月次祭終了後に「直心会役員・支部長会議」を開催致します。
関係の皆様はご出席をお願い致します。

- 4月の行事
- 17日(日) 本苑四月月次祭
- 直心会役員・支部長会議
- 24日(日) 誠心会万祥殿献勞
- 5月の行事
- 7日(土) 直心会緑寿館献勞
- 15日(日) 本苑春季大祭・祖霊慰霊大祭・奉納冠沓句

生きがいの創造

出口日出磨 著

自分自身で探し求めよ

高い目からみて、それがまちがっているように見えても、とにかく、真の自覚からでた行動でなければ自分のものではない。それは、人形的行動である。真の自覚からではなく、単なる他からの誘導のままに行動した場合には、たとえそれが成功したにせよ、自分に真にそれだけの価値があつてのことではないから、内的にみれば、人形が壇上で威張っているようなものである。

自分の目で発見し、自分の脚で進むべきである。そうであれば、真の意味の向上も悟りもないのである。

自己の内心において、どうしても受け入れることを言(がえん)しなかつたら、たとえ神の使いのごとき観ある人が目前に立つて誘つたにしても、かぶりを振つたらよいのである。また自己の内心においてかまわぬと思惟(し)したならば、百万の人が止める場合でも遂行したらよいのである。

人間は真の信も智も、他力的に言えば、すべて神から与えられるのであり、自力的にみれば、体験によつてのみこれを獲得することができぬ。だから、自分自身の体験無くしては、断じてなんらの信も智も得られるものでない。

おり、努力していきこうと思つていきます。

今回の講習でお世話になつた先生方には、心から感謝しております。ありがとうございました。

「一部と全体」

出口日出磨 信仰雑話より

特任宣伝使 芝田豊海

「身体のごとくが悪くても、全体にその痛みを感じる。家族に一人わるい者があつても、一家全体に安らかぬ気がただよう。一団休一国家、一世界……においてもみな然りである。ただその影響が、はなはだ直接であるか、然らざるかの相違にすぎない。

われわれの一念、一言、一行は、ことごとく相互に影響し合つているのである。このことを厳肅に考える時は、われわれは、わがために吾ではなくして、全体のため、一切のための

「身体のごとくが悪くても、吾であることを痛切に知るのである。であるから、真の生活というものは、この世においても、あの世においても、一切のため、全体のためにその用を遂げることにあるのである。」

うなものだ」と言つた。

二人目の盲人は象の耳に触り、「象とはうちわのよつなものだ」と言つた。

三人目の盲人は象の足に触り、「象とは木の幹のよつなものだ」と言つた。

四人目の盲人は象の同体に触り、「象とは壁のよつなものだ」と言つた。

五人目の盲人は象のしっぽに触り、「象とはロープのよつなものだ」と言つた。

六人目の盲人は象の牙に触り、「象とは槍のよつなものだ」と言つた。

それから、六人の盲人たちは長いこと言い争い、それぞれが自分の意見を譲らなかつた。

会議等では、一つの意見に固執せず、個人の手柄名言での意見は慎み常に全体の事を考え発言したい。

「男と女」

出口王仁三郎

昭和青年」誌(昭和7年5月号記載)

特任宣伝使 松永孝司

質問 「男は幾度生まれ変わつても男で、そしてまた女は女なのではないか?」

【そんな事はないね、男女の区別が出来るのは、母の体内に入つてからや、それから変わつてくるのや。女ばかり放つておくと、一緒に寝ないで一人で寝かしておくと概して女ばかり生まれるのや、ワシがそうやろ、あれは一緒に寝んさかいや、家が小さくて親爺と嬢がひついで寝ていると男の子の方が比較的多く生まれる、それは男の気がつて来るからやがな。普通三か月くらいは男女が決まつておらん。三か月後に男女が決まつて来る。医学者は何というか知らんが霊学の方から云つとそうや。霊子が、天人が天上で交合する時に、天人が出した霊子が、天人の感染しておる所の現界の人々に……つまり、それがフツと感じた時に地上の人間またそういう觀念が起つて来て、その時にパツと入つて来るのや。】

質問 「その霊子が入つて来る時には霊子が男性であるか、女性であるか区別がついてくるのですか?」
【それはないね、天国では男女一体だから、夫婦は一人と見なしているから、その時に地上で感じた夫婦には本当に良い子出来るのや。しかしまた狐や狸などの霊が入つて来る事もある。そんな子供はせっかく人間に生まれて来ても一生阿呆みたいなものや。下僕に生まれるとか、奉公人に生まれるとか。しかしそれが今度目に生まれて来るとよい人になる事もある。】

さて、我々の本来の姿は男か女か考えさせられる。最近、この問題でお困りの方々がが増えていく傾向である。私も突然この様なことになれば、一大事である。最近では男女同権の主張が増加傾向であるが、男は男の任務があるのではないか。

「雑草なんて言わないで」

豊田支部 杉山 孝

立春も過ぎ、これからは「一雨ごとの温かきかな」と春を迎える時期です。野に山に春の訪れを目で見ると田んぼでは土筆(つくし)が現れ、そのあとにはスギナが出てきます。皆さんはスギナというと「厄介者」のレッテルを貼られることと思いますが、まるっきり違う見方をすると人たちが沢山みえます。「薬効がいっぱい詰まったハーブ」。特にスギナに含まれるケイ素は人の健康維持に必要な不可欠なミネラル分。

カリウムも豊富に含まれ体にある余分な水分を排出してくれ、むくみや高血圧の改善に役立ちます。それがタダで手に入る!活用しないなんて勿体ない。

私は犬の散歩道ではみどころに生えるスギナを春に(春以外の薬効は少ないようです)採取し洗い、陰干して刻みお茶としていただきます。とても飲みやすいお茶になります。雑草なんて言わないで!

連載 大本之ぼね話